

発電所放水路の橋の橋名板 命名者の三上さんに贈呈

公募で決まった「がんけ橋」の橋名板（レプリカ）を、北海道から贈呈された命名者の三上輝夫さん（虻1区）が、12月24日役場を訪れ、真屋町長に感謝の気持ちを伝えました。

同橋は、虻田漁港大磯分区へ通じる臨港道路の整備にともなって発電所放水路に新たに掛けられたもので、北海道の呼びかけで橋の名前を募り、12件の中から三上さんが応募した「がんけ橋」に決定されました。

三上さんは「大正時代から現在も大磯町をがんけと呼んでいて、大変親しみやすい名前なので良いと思った」と命名の由来を話し、採用を喜んでいました。



橋名板を手にする命名者の三上さん（左）

1月6日、日本水難救済会虻田救難所（高清水幸夫所長）の平成28年出初式



安全を祈願した虻田救難所出初式

があぶたふれ合いセンターで開かれ、今年1年の安全と豊漁を所員一同が祈願しました。

式では、最初に高清水所長への永年勤続表彰が行われ、引き続き、人員報告、服装点検の後、真屋敏春監督官から「安全操業を心がけ無事故でこの1年を過ごしてください」と訓示がありました。

来賓の挨拶を受けて、高清水幸夫所長が「海難事故ゼロをめざして、平穏な年になりますよう訓練に励んでいきます」と答辞を述べ、出初式を終了しました。

虻田救難所出初式 今年1年の無事故を誓う

四 国の風習である「年明けうどん」にあやかり、1月9、10日の両日、財田自然体験



新年を紅白うどんで作る参加者たち

ハウスで、新年紅白うどん作り教室が開かれ、2日間で町内を中心に10人が参加しました。

白いうどんに赤の具材を乗せる「年明けうどん」は、2008年から「年明けに縁起を担いで食べるうどん」としてさぬきうどん振興協議会が中心となって実施しているものです。

当日は、洞爺湖ビジターセンターの佐々木伸さんの指導の下、白いうどんと紅色を練り込んだうどんの2種類を作り、紅白うどんを完成させました。

紅白のうどんで作る新年祝う コシのあるうどんに舌鼓

老人クラブ新年演芸交流大会 笑顔で盛り上がる新年会

新年演芸交流大会（洞爺湖町老人クラブ連合会主催）が、1月21日洞爺湖文化センターで開かれ、カラオケや踊りなどで新春を祝いました。

老人クラブ会員が楽しみにしている年始行事で、今回は加盟14団体130人が参加。

毛利会長の開会あいさつ、真屋敏春町長、佐々木良一町議会議長らの来賓祝辞に続いて開演。

ステージでは、自慢ののどを披露する人や踊り、合唱、演奏など芸達者な皆さんの出し物が次々に披露され、会場から大きな拍手と声援が送られていました。



踊りを披露した入江クラブの皆さん

まちのわだい